1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年4月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100765
法人名	有限会社 コンフィアンス
事業所名	グループホーム はらら
所在地	鹿児島県鹿児島市原良二丁目10番11号 (電話) 099-210-5524
自己評価作成日	令和6年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地に近く、交通の便も良い場所にありながら、静かな環境にあり、近隣には保育園、幼稚園、小・中学校、商店や医療施設が多く立地しており、開設当初から自立支援に向けた取り組みに力を入れています。家庭的な環境の中で、利用者様の残存機能を活かしながら、職員は個々の状態を把握し、出来ることはご自分でしていただけるような支援を理念に掲げ、実施に努めています。今年度は、コロナ感染の状況をみながら、ご家族との外出や外泊も行っています。又、面会は1階ロビーにて予約制で行っています。今年はお花見や外食も行いました。又、季節の行事もその時々で行うことができました。今後は日常生活の中で、外出や散歩も取り入れられるよう努めていきたいと思っております。入居者様が個々の尊厳と生活の質を保ちながら、幸せな生活を送ることができ、ご家族の皆様も安心していただけるよう、日々研修を重ねています。

- ・当事業所は3階建ての建物の2階と3階部分の2ユニットのグループホームである。
- ・毎年、法人理念・ケア目標に沿った年度計画を掲げ、評価・見直しを行い、理念・目標に沿ったケアを実践している。
- ・運営推進会議を系列のグループホームと合同で開催、会議では活動状況に関する評価・意見・要望等を出し、考えや取り組みを報告している。参加者や利用者や家族からの意見や要望も多く出され、活発な意見交換が行われている。
- ・自立支援を基本に残存機能の活用や維持に努め、運動や訪問リハビリ活用を積極的に取り組んでいる。
- ・管理者は職員とのコミュニケーションを大切にして意見や要望・提案等の出やすい環境作りに努め、気付きシートを活用して運営に反映している。
- ・職員の内部研修・外部研修を充実し、資格取得の奨励と資質の向上を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの精神を基に、社内研修等で理念に基づき、情報を共有し実践に努めている。入職時には、必ず理念を伝えている。	法人理念とケア目標を掲げ玄関・フロアに掲示、重要事項説明書に明示している。年間目標を全体会議・フロア会議において確認・振り返りを行い、理念に沿ったケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々には日中留守のお宅が多く、地域との交流は難しいところもあるが、2か月に1回開催される運営推進会議では、民生委員の方から地区住民の方の状況や地区の行事等の報告をいただいている。	町内会に加入、運営推進会議において地域の情報を共有している。以前は公民館でのふれあい会食に参加したり、六月灯や地域運動会への参加をしていたがコロナ感染対策の影響で自粛している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	開設して10年過ぎ、当施設の認知度も少しずつ増えているように感じている。問い合わせがあった際は、相談に応じて認知症について説明を行い、地域の事業所としての役割に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>本年度は、おおよそ2ヶ月に1回のGHはららとの合同運営推進会議を開催することができた。</p> <p>参加人数も増えて、毎回活発な意見交換が行われている。又、質問も多く、いただいた意見を基に、サービス向上に努めている。</p>	<p>系列のグループホームと合同で2ヶ月毎の対面での会議を開催している。会議では活動状況に関する評価・意見・要望等が出され、それに対する考えや取り組みを報告している。利用者や家族からの意見や要望も多く最近では面会についての要望があり面会場所の空調改善につながっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>管理者は市町村担当者に事業所の考え方や、運営や実情等を市町村に出向き考え方や運営の実態を共有している。事故については必ず報告している。市の方からは、事故報告の詳細についての問い合わせが多くなった。</p>	<p>市からはメールやファックスで情報を共有している。運営推進会議での情報や書類関係で出向いたり必要に応じて電話での相談で連携を図っている。研修案内には積極的に参加し、グループホーム協議会を通して協力体制を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>外部研修・内部研修の中で、身体拘束は禁止という認識を持ち介護に取り組んでいる。委員会では、身体拘束にあたるかどうかの事例について話し合いを行っている。又、日々の介護の中で気になる事は、職員から質問があり、それについて検討している。</p>	<p>指針・マニュアルがあり、「身体拘束全面禁止」を掲げている。3ヶ月毎に委員会を開催し、年間研修計画に沿った内部や外部研修が定期的実施し、理解と意識の統一が図られている。スピーチロックについては特に意識して実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法に基づき、研修で繰り返し学んでいる。特に、ケアマネやフロア責任者は、日常から虐待について注意を払い、見過ごされることのないよう努めている。気になる事例があった場合は、直ちに管理者に報告を行い、改善に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を行い、後見人制度や高齢者虐待についての勉強会を行っている。後見人制度を利用している利用者様がいらっしゃった場合は、後見人とのやり取りや依頼されて事について協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結や解約時、改定の際は、十分な時間を取り、事業目的や重要事項説明を丁寧に行い、ご理解をいただいている。入居中の様々な質問にも、可能な限り丁寧に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様へ日頃より意見や要望等を聞き、管理者やケアマネジャー、フロア責任者、職員と話し合い改善に努めている。ご家族様には状況報告時に意見や要望等の把握に努め、運営に反映させている。ご家族様からの質問や要望は、ケアマネやフロア責任者と共有し解決している。又、苦情については、全職員と共有し、改善に努めている。	利用者からは日常生活での会話の中から、家族には面会や電話連絡時に意見や要望を聞くようにしている。把握した情報は申し送りノートやラインで共有し、会議を通して運営に反映している。家族とのラインの活用もある。訪問リハビリ利用に繋がった事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>「気付きシート」を活用し、フロア会議等で繁栄させている。管理者は、ケアマネやフロア責任者等から意見や提案等を聞き、運営に反映できるよう努めている。又、職員の意見等は、管理者から代表者に伝えている。</p>	<p>申し送り時や会議において職員の意見や提案・要望を聞く機会がある。「気付きシート」でケアや運営に関する意見や要望を確認、出された意見や要望は話し合いを持ち運営に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は、職員の勤務状況や労働時間等の報告を受け、各自が意欲向上に向かえるような職場環境の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、管理者が立てた内部研修・外部研修計画に基づき、研修の機会を確保できるよう、日頃から職員を育てる取り組みを支援している。又、各研修についても、研修費の支援や勤務調整を行う等、対応している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍の中、地域の事業者間の交流会は減少しているが、オンラインの研修会等の機会の確保に努めている。その中で、同業者との意見交換、情報共有を行い、サービスの質を向上させていくよう取り組みを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった場合は、事前面談を行い、生活状況、心身状態、本人の思い等に向き合い、入居後の信頼関係をスムーズに築く事ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前の面談においては、ご家族とのコミュニケーションを大切にしている。ご家族の困っている事や不安な点、ご家族の要望等について、時間をかけて話を伺い、今後の関係づくりに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用相談時は、ご本人やご家族の状況等を確保し、現時点での必要なサービスを提案できるよう努めている。必要があれば、他事業所の紹介や仲介を行っている。又、施設に訪問している様々なサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活しているという気持ちを持ち、残存機能を活かした支援を心がけている。その中で、その方に見合った家事を行えるよう声掛けをしたり、環境整備を行っている。又、共に生活している者同士、職員と利用者様の関係が一方的なものとならないよう努め、互いの関係作りに務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染が落ち着き、ご家族様の係わりも増えてきつつあり、ご家族様との面会や外出をされる利用者様も多くなった。ホームとしては、どなた様にも日頃より状況報告を行い、ご家族様と一緒に介護を行っていただけるよう、受診介助や面会、電話等の協力をお願いし、一方的な介護にならないよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話、手紙等の支援を行うことにより、入居により馴染みの関係が途切れないよう努めている。困ったことやできないことがあれば、その都度支援を行っている。	面会制限が徐々に解除となり面会や外出など希望に添える支援が行えてきている。電話の取り次ぎや手紙等のやり取りの支援、行きつけの美容院利用など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、常に利用者様同士の関係の把握に努めている。リビングの座席等も考慮し、日中楽しく過ごしていただけるように努めている。他利用者様から言動を批判される利用者様に対しては、職員自身の言動の振り返りを行うよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は、退居後の病院や施設に情報提供を行い、ご本人やご家族様の意向も伝えている。又、サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアマネージャーやフロア責任者が中心となって、ご本人の意向の把握に努めている。又、ご本人の意向は、会議やソーシャルメディアを活用し、職員間で情報共有を行っている。	入居時のアセスメントや家族からの情報、日常会話で希望や思いを傾聴し把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始の際は、管理者やケアマネージャーが情報提供書による把握やご家族様、関係者からの生活歴を聞き取り、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報は、管理者やケアマネージャーが詳しく聞き取りを行っている。入居後は、心身状態の変化を見逃さず、記録物やソーシャルメディアを通して情報共有を行い、現状を総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議にて職員の意見を出し合い、一人ひとりの課題について検討している。又、主治医や訪問マッサージ・訪問歯科の先生からもその都度アドバイスをいただき、介護計画に反映させている。	毎月のケア会議において情報を共有、モニタリングは3ヶ月毎、介護計画は6ヶ月から1年毎に見直し、状況変化時には随時見直しを行い、本人・家族の意向を確認しながら主治医・理学療法士・看護師・職員等の意見を踏まえ、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、日々の様子や気付き等を本人の言動を元に個別記録に残し、情報共有を行っている。ケアマネジャーは、それらを介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の要望に応じて、通院や外出、買い物等の支援を行っている。又、それぞれの利用者様のその時々に必要な支援を見極め、介護保険サービス以外の支援にも柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、地域資源との協働を行っている。徐々に地域の方々にも、グループホームや認知症についての理解や協力も得られてきているように思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を確認し、ホームの協力医や訪問診療を行う病院の説明を行った上で、納得のいくかかりつけ医の選択ができるよう支援を行っている。おおよそのかかりつけ医とは、24時間体制で相談・報告を密に行い、信頼関係を築いている。又、必要に応じて、他科受診も支援している。	それぞれのかかりつけ医による往診と受診、必要時には医療での訪問看護利用と適切な医療を受けられるよう支援している。主治医とは24時間連絡体制が整い、看護職員も数名在籍しており連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回、看護職員による健康観察を行っている。通常は、ほぼ毎日看護師が勤務しており、情報共有を行いながら、利用者様の体調不良時に適切に対応できるように努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院となられた場合は、医療連携室や看護師、医師と連携を取りながら、早期退院と適切な治療が受けられるように努めている。又、退院後は安定した生活が送れるよう必要な支援等について、医療との連携に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に、重度化した場合や終末期についての事業所の方針を説明し、ご本人やご家族様の意向を伺っている。又、入居時に「延命措置に関する意思確認書」の記入をお願いしている。又、重度化した場合においては、事業所の力量について説明を行い、臨機応変な対応に努めている。</p>	<p>指針・マニュアルを基に契約時に説明し、「延命措置に関する意思確認書」を記入してもらっている。状態悪化時には主治医を交えて話し合いをもち、家族の意向に沿った支援を行い、医療機関や特別養護老人ホームへの移動が多い。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時には全職員が対応できるように、定期的に研修を行っている。又、急変時や事故発生時の対応方法や連絡方法についてはフロアに掲示し、繰り返し全職員に周知を図っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>職員研修にて災害対策の研修を行ったり、利用者様と一緒に定期的に訓練を行っている。又、運営推進会議等で、地域の方への協力もお願いしている。災害発生に備えて、食料品や飲料水の備蓄、必要物品の準備も行っている。</p>	<p>年2回、消防署立ち合いでの総合避難訓練と災害対策の研修会を実施している。運営推進会議において地域代表に実施計画を通知している。緊急連絡網の整備と備蓄も準備しており事業継続計画（BCO）も作成済である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修でプライバシー保護や人格の尊重について繰り返し学んでいる。気になる言葉かけや対応については、会議等で話し合っ改善している。又、職員同士で、常日頃から会話、言葉遣いに十分注意を払うよう気を付けている。	マニュアルがあり、年間計画でプライバシー保護・接遇・権利擁護等の研修を実施している。入室時のノックや入浴・排泄介助時等、特に尊厳やプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、それぞれの利用者様の思いやして欲しい事・したい事等を話しやすい雰囲気づくりに努めている。又、ご利用者様へ希望を伺うよう気を配っている。夜勤者に漏らした言葉等からも本人の思いを把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、個々の性格やペースの違いに配慮し、できる限り個別性のある支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	好みの服を着たり、ご自分で化粧ができる方はそれぞれ行っている。又、物品購入の支援やご家族様への依頼もその都度行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は作らず、利用者様と相談したりリクエストに応えたメニューを取り入れたりしている。又、誕生日はご本人の好きなメニューを提供している。行事食のメニューも利用者様に喜んでいただけるよう気を配っている。できる方には簡単な作業のお手伝いをお願いしている。	利用者の希望を聞きながらその日の献立を作成している。食事形態の工夫、行事食やテイクアウト・お弁当・そうめん流し・誕生日の希望食等、食事が楽しくなるよう工夫している。テーブル拭きや下ごしらえの手伝いなど力量に応じて職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に個々の状態を把握、記録している。それぞれの利用者様の状態にあった水分量、食事量を提供している。又、嫌いな物や食べれない物を把握し対応している。自己摂取が困難な方には食事介助を行い、必要に応じて補助食品等も利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居後、協力歯科による検診をお願いし指導を受けている。毎食後は、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。又、ご利用者様の状態や希望に応じて、訪問歯科による定期的な口腔ケアも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄機能を活かし、ご利用者様の状態に応じた排泄の支援を行っている。排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握やトイレ誘導を行い、できる限りトイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を活用、日中は基本トイレでの排泄を支援している。夜間帯は状態に応じてポータブルトイレ・おむつ・リハビリパンツ・数種類のパット使用や個々に応じた残存機能を活用した支援を行っている。改善の見られた事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況を把握している。オリゴ糖や水分をとっていただいたり、主治医に相談し個々に応じた便秘薬の使用を行っている。又、トイレ誘導や体を動かすことで、排便の促進にも気を付けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ご利用者様のその日の状態や希望に応じて入浴を支援できるよう努めている。一人ひとりの習慣や好みを職員で共有し、個別にあった入浴の支援を行っている。又、羞恥心・恐怖心へ配慮し、言葉かけや対応の工夫もやっている。	入浴は基本週3回、月曜日から土曜日の午前中に実施。体調や希望に合わせた入浴支援を実施している。季節によりしょうぶ湯やゆず湯等で楽しめるよう工夫している。拒否のある場合は声かけの工夫や時間差・曜日変更等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の時間はご本人の希望に沿った時間となるよう努めている。夜間、テレビを見たりお話をしたりして過ごされる方もおられる。又、日中の活動を促し、生活リズムが整えられるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表にて薬の用法、用量、副作用を確認できるようにしている。薬は一人ひとり薬箱に入れ、職員2人で服薬時は名前・日付・服薬時間を読み上げ、飲み込まれるまで確認している。ご本人の状態に変化がみられた場合は主治医に相談し、適切な薬の服用について支援を行っている。必要時は、薬剤師にも相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日々の利用者様との係わりの中で解る、それぞれの利用者様の中の潜在している記憶やできる力を最大限に活かして日々を過ごせるよう努めている。得意な仕事を頼み感謝の言葉を伝えたり、外出や行事等をご利用様と相談しながら行う等し、一人ひとりに合った役割や楽しみ、気分転換の支援を行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>本年度は数回の外出や外食を行うことができた。又、気候の良い日は近所へ散歩にも出かけた。現在は、ご家族との外出や外食も少しずつ増えてきている。お正月等は、自宅へ帰ることができるようご家族様にも協力を依頼している。</p>	<p>行事計画で月1回は外出を計画している。天気の良い日には近所への散歩やミニドライブ・家族との外出や外食等、外出の機会が少しずつ増えるようにしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>コロナがまん延して以降、利用者様が直接買い物を行うことはできなくなったが、個々の利用者様の希望される買い物等の支援は随時行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を持っていらっしゃる方には、充電の声掛けや電話使用の支援を行っている。又、職員の電話を使用しテレビ電話を行ったり、切手やはがきの購入を行い、日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所には仕切りがなく、ご利用者様が自由に入出入りできるよう配慮している。又、調理の音や匂いを感じながら、家庭的な雰囲気でも過ごすことができるよう支援している。清潔や室温・湿度にも気を付け、居心地よく過ごせる空間となるよう努めている。季節に合わせた飾りつけも行っている。 5S担当者を決め、職員は担当利用者様の環境整備を行っている。	共用空間は広く、大きな窓で明るい雰囲気となっている。台所は仕切りが無く自由に入出入りができる。フロアにはエアコン・加湿器・空気清浄機を置き、換気と合わせて空調管理を行っている。観葉植物や手芸作品で季節を感じられる。テーブル・椅子・ソファがあり、好みの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様個々の状態の変化や利用者様同士の関係性等に配慮し、座席やテーブルの位置を変えている。又、リビングにはソファを設置し、くつろげるスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご家族とお話しをさせていただき、写真や思い出の品、馴染みの物などを用意していただくようお願いしている。入居後も、必要に応じてご本人が希望する品物を持ってきていただくなどし、本人が居心地よく過ごせるように配慮を行っている。	エアコン・ベッド・タンス・洗面台を設置し、寝具はリースである。それぞれがテレビ・ラジオ・電話等を持ち込み、位牌や遺影・仏壇・家族の写真・カレンダー・好みの品物を置き、居心地よく過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者様が安全で自立した生活が送れるように、身体機能の変化等に考慮し、個別の環境整備を工夫している。又、職員で話し合いながら安全な生活環境の改善に取り組んでいる。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない